

記事解説

平成 30 年 8 月 6 日
日本原子力研究開発機構

件名：廃炉試験カメラ曇る

平成 30 年 8 月 3 日（金）
毎日新聞（大阪 3 面）

記事概要（抜粋）

- 燃料取り出し作業は、人が立ち入れない区域があるため遠隔操作で実施。
- 原子力機構は本格的な作業の前に、安全性に影響しない制御棒を 燃料プール から移動させる試験を 7 月 26 日まで行ったが、問題はその過程で起きた。
- 移動先の専用容器や区画を監視するカメラ 2 台のレンズが曇り、作業を十分に確認できなかった。
- 燃料プールのナトリウムの温度は約 200 度で、試験で取り出した制御棒は高温状態だった。移動先の区画で冷やす必要があり、水をいれたら大量の水蒸気が発生したらしい。
- トラブル解消には、「湯気が立つ風呂場を乾燥させる」 ように、水蒸気が発生した区画の密閉空間の湿度を下げる必要がある。

事実関係（記事概要下線部について）

- 記事内容については概ね事実であるが、下記の通り、一部誤認（記事概要下線部）がある。
- 記事中の燃料プールは、炉外燃料貯蔵槽の誤りである。
- 記事中の水をいれたら大量の水蒸気が発生したらしい。また湯気が立つ風呂場は、誤りである。
使用済制御棒の洗浄手順は以下の通りであり、洗浄段階で制御棒は十分に常温となっており、缶詰装置内にて制御棒を缶詰する時に 大量の水蒸気が発生することはない。また湯気が立つ風呂場のような雰囲気ではない。
 - ・炉外燃料貯蔵槽のナトリウム中（約 200℃）に貯蔵している使用済制御棒を取出す。
 - ・使用済制御棒を洗浄槽へ移し、湿潤アルゴン及び脱塩水（常温）で洗浄する。
 - ・その後、缶詰装置に移送し、脱塩水（常温）とともに缶詰缶に封入する。

以 上